

平成29年度川崎市強度行動障害支援力向上研修 (強度行動障害支援者養成研修【基礎研修】) 学則

1. 目的

行動障害を有する者のうち、いわゆる「強度行動障害」を有する者は、自傷、他害行為など、危険を伴う行動を頻回に示すことなどにより、日常生活に困難が生じているため、現状では事業所での受入れが消極的であったり、身体拘束や行動制限などの虐待につながる可能性も懸念されるところです。

一方、障害特性の理解に基づく適切な支援を行うことにより、強度行動障害が低減し、安定した日常生活を送ることができることが知られています。

このため、強度行動障害を有する方の地域移行及び地域生活に向けた取り組みとして強度行動障害に係る支援手法の浸透や、適切な支援を行う職員の人材育成を目的とする研修を実施します。

2. 研修事業の名称等

名 称 : 川崎市強度行動障害支援力向上研修
(強度行動障害支援者養成研修【基礎研修】)
事業者指定番号 : 第0002号

3. 研修実施場所

名 称 : 川崎市高齢社会福祉総合センター
所 在 地 : 〒214-0035 川崎市多摩区長沢 2-11-1

4. 研修期間

本研修は平成29年度に1回につき2日間を計2回実施致します。

平成29年度第1回目(2日間): 平成29年9月7日(木)～8日(金)

平成29年度第2回目(2日間): 平成30年1月18日(木)～19日(金)

5. 研修カリキュラム及び講師氏名、演習計画(別紙参照)

6. 受講資格

次の(1)から(3)の要件をすべて満たす者

- (1) 川崎市内の障害福祉サービス事業所等において、知的障害、精神障害のある児者を支援対象にした事業に従事する者、もしくは今後従事する予定のある者、または一次相談支援機関・二次相談支援機関に従事する者
- (2) 2日間すべての日程を受講できる者であること
- (3) 所属している法人の推薦を受けた者

7. 受講手続（募集要項等）

ウェブサイト「障害福祉情報サービスかながわの「書式ライブラリー」→「3. 川崎市からのお知らせ」→「1. 川崎市からのお知らせ」に各回の募集要領（実施要領）を掲載し申し込み方法をお知らせします。申し込みは個人ではなく、所属する法人単位で申し込みをしていただきます。

8. 受講者の決定

- 定員を大幅に上回った場合には、推薦された方の中から、法人内優先順位を勘案し、申込の内容を審査した上で決定します。（先着順ではありません。）
- なお、「行動援護従業者養成研修」及び「重度訪問介護従業者養成研修行動援護支援課程」を修了していない方を優先して選考対象とします。
- 重度障害者（児）支援加算等に係る届出書を提出している事業所に従事している方も優先して選考対象とします。
- 行動援護業務に従事している方や従事しようとする方は、「行動援護従業者養成研修」の受講をご検討ください。
- 受講決定については、各法人あてに通知をまとめて送付します。

9. 受講定員

各回32名

10. 受講料及び資料代

受講料は無料です。ただし、受講に必要な**教材費等5,500円**は、受講者負担とします。（支払方法等詳細は、受講決定とともにご案内します。）

※会場までの交通費その他についても、受講者負担とします。

11. 使用テキスト

『行動障害のある人の「暮らし」を支える』

（強度行動障害支援者養成研修【基礎研修・実践研修】テキスト）

発行：中央法規出版社

監修：特定非営利活動法人全国生活支援ネットワーク

編集：牛谷正人・片桐公彦・肥後祥治・福島龍三郎

1 2. 研修修了の認定方法

(1) 公的機関発行の証明書等により受講者の本人確認を行い、全カリキュラムを受講した者に対して修了証明書を交付致します。なお本人確認方法については研修初日に下記の提示によって行います。

- ・住民票の写し
- ・住民基本台帳カード
- ・在留カード等
- ・健康保険証
- ・運転免許証
- ・パスポート
- ・年金手帳
- ・生活保護受給証明書
- ・国家資格等を有する者については、免許証又は登録証等

(2) 受講者がやむを得ない理由でカリキュラムの一部を受講しなかった場合は、補講の受講によって修了証明書を交付します。他の事業者が指定を受けた同一過程の研修において、該当科目を受講することで補講とします。その際は原則1か月以内、やむを得ない場合2か月以内に受講することとします。補講を受講した際には、別途受講料が発生する場合があります。

1 3. 個人情報の取り扱いについて

○研修を通して知り得た個人情報は、当該研修業務の運営以外に使用されることはありません。

○本研修の修了者は、強度行動障害支援者養成研修【基礎研修】の修了者名簿（修了証書番号、氏名、生年月日、所属等）として神奈川県に報告します。

1 4. その他

○遅刻及び早退は欠席とみなします。修了証書を交付できませんので、ご注意ください。通勤時間帯による混雑や天候等をご配慮の上、余裕を持ってご来場ください。

○著しく受講態度が悪く（私語、居眠り、携帯電話の使用等）、繰り返し注意された方には修了証書を交付できませんので、ご注意ください。

○受講にあたり、手話通訳、点字教材、身体障害者用駐車場等を使用する方は、受講申込書の所定欄に記載してください。

○来場の際は、公共交通機関をご利用ください。

15. 研修に関する問合せ先

(本研修の申込手続き・実施等に関する問合せ先)

■社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 川崎市高齢社会福祉総合センター

住 所：〒214-0035 川崎市多摩区長沢2-11-1

電 話：044-976-9001

FAX：044-976-9000

担 当：中村

(本研修に関する問合せ先)

■川崎市健康福祉局 障害保健福祉部 障害計画課

電 話：044-200-0871

FAX：044-200-3932

担 当：本竹

講 師 一 覧 (基礎研修)

担当科目		氏 名	現 職	専任・兼任
講 義	1 強度行動障害がある者の基本的理解			
	①強度行動障害 とは	さ の りょう 佐野 良 氏	社会福祉法人育桜福祉会 桜の風 副施設長・さくら所長	兼任
		あ さ の ともあき 阿佐野 智昭 氏	社会福祉法人青い鳥 川崎市発達相談支援センター	兼任
	②強度行動障害 と医療	えがわ ぶんせい 江川 文誠 氏	えがわ療育クリニック 院長	兼任
	2 強度行動障害に関する制度及び支援技術の基礎的な知識			
	③強度行動障害 と制度	かんだ ひろし 神田 宏 氏	横浜市発達障害者支援センター 地域支援マネジャー	兼任
	④構造化	かねこ ひろたか 金子 浩崇 氏	社会福祉法人横浜やまびこの里	兼任
	⑤支援の基本的 な枠組みと記録	さ の りょう 佐野 良 氏	社会福祉法人育桜福祉会 桜の風 副施設長・さくら所長	兼任
	⑥虐待防止と身 体拘束	たかはし りゅうじ 高橋 隆志 氏	子ども自立支援生活センター	専任
⑦実践報告	にしべ まゆみ 西部 真弓 氏	社会福祉法人横浜やまびこの里 東やまたレジデンス	兼任	
演 習	1 基本的な情報 収集と記録等の 共有	うきがい あきのり 浮貝 明典 氏	特定非営利活動法人 PDD サポートセン ター グリーンフォーレストグループホ ーム部門 管理者	兼任
		さ の りょう 佐野 良 氏	社会福祉法人育桜福祉会 桜の風 副施設長・さくら所長	兼任
	2 行動障害があ る者の固有のコ ミュニケーショ ンの理解	きむら しげゆき 木村 重之 氏	社会福祉法人横浜やまびこの里 東やまたレジデンス	兼任
		かねこ ひろたか 金子 浩崇 氏	社会福祉法人横浜やまびこの里	兼任
	3 行動障害の背 景にある特性の 理解	きむら しげゆき 木村 重之 氏	社会福祉法人横浜やまびこの里 東やまたレジデンス	兼任
		うきがい あきのり 浮貝 明典 氏	特定非営利活動法人 PDD サポートセンタ ー グリーンフォーレストグループホー ム部門 管理者	兼任

演 習 補 助 者 一 覧 (基礎研修)

担当科目		氏 名	現 職	専任・兼任
演 習	1 基本的な情報 収集と記録等の 共有	かんだ やすあき 神田 靖章 氏	社会福祉法人川崎市社会福祉事業団 川崎市 柿生学園 主査	兼任
	2 行動障害があ る者の固有のコ ミュニケーショ ンの理解	くどう けいすけ 工藤 圭介 氏	社会福祉法人セイワ 障害者支援施設（入所）つばき寮	兼任
		たなか あい 田中 愛 氏	社会福祉法人三篠会 障害者支援施設みずさわ	兼任
	3 行動障害の背 景にある特性の 理解	すずき のりゆき 鈴木 謙之 氏	社会福祉法人育桜福祉会 いぬくら（生活介護） 主管・サービス管理責任者	兼任

平成29年度 川崎市強度行動障害支援力向上研修（強度行動障害支援者養成研修【基礎研修】）
研修スケジュール

会場：川崎市高齢社会福祉総合センター

日程	1日目			
	開始 ～ 終了	min	種別	内容
1 日 目 平 成 2 9 年 9 月 7 日 （ 木 ）	9:00 ～ 9:30	30		受付
	9:30 ～ 9:40	10		開会 川崎市より挨拶 ガイダンス
	9:40 ～ 10:10	30	講義	「プロローグ～強度行動障害のある人についての基本的な理解～」 強度行動障害とは（１）
	10:10 ～ 11:10	60	講義	「私たちのことを知ってほしい～強度行動障害に関係する障害について～」 強度行動障害とは（２）
	11:10 ～ 11:20	10		休憩
	11:20 ～ 12:10	50	講義	「支える仕組み～制度理解のヒント～」 強度行動障害と制度
	12:10 ～ 13:20	70		昼休憩
	13:20 ～ 14:20	60	講義	「医療と一緒に～福祉と医療の連携～」 強度行動障害と医療
	14:20 ～ 14:30	10		休憩
	14:30 ～ 15:30	60	演習	「私たちが困っていること～感覚の違いを体験しよう～」 行動障害の背景にあるもの（１）
	15:30 ～ 16:30	60	演習	「わかりにくいんです～伝わりにくさを体験しよう～」 固有のコミュニケーション（１）
	16:30 ～ 16:40	10		休憩
	16:40 ～ 17:10	30	講義	「支援の現場から～事例紹介～」 実践報告 児童期における支援の実践
	17:10 ～ 17:40	30	講義	「支援の現場から～事例紹介～」 実践報告 成人期における支援の実践
	17:40 ～ 17:45	5		事務連絡 2日目ガイダンス

日程	2日目			
	開始 ～ 終了	min	種別	内容
2 日 目 平 成 2 9 年 9 月 8 日 （ 金 ）	9:00 ～ 9:10	10		受付
	9:10 ～ 10:10	60	講義	「ボクらの世界とのつながり方～環境を整えることの大切さ」 構造化
	10:10 ～ 10:20	10		休憩
	10:20 ～ 11:50	90	演習	「やりやすくする～整えられた環境での活動～」 固有のコミュニケーション（２）
	11:50 ～ 12:50	60		昼休憩
	12:50 ～ 13:20	30	講義	「その時あなたは どうしますか～虐待・身体拘束・行動制限の予防は支援の質の向上から～」 虐待防止と身体拘束
	13:20 ～ 13:30	10		「みんなでやろうよ～アイスブレイク～」
	13:30 ～ 14:00	30	講義	「みんなでやろうよ～チームプレイの大切さ～」 支援の基本的な枠組みと記録
	14:00 ～ 14:30	30	演習	「お互いに共有しよう～記録と情報共有～」 情報収集とチームプレイの基本（１）
	14:30 ～ 14:40	10		休憩
	14:40 ～ 15:10	30	演習	「知ることから始めよう～根拠をもって支援する～」 情報収集とチームプレイの基本（２）
	15:10 ～ 16:40	90	演習	「本当の理由を考えよう～氷山モデルで考える～」 行動障害の背景にあるもの（２）
	16:40 ～ 16:45	5		チェックリスト記入・回収
	16:45 ～ 16:55	10		休憩
	16:55 ～ 17:15	20		チェックリスト解説
	17:15 ～ 17:25	10		閉会 修了証授与 川崎市より挨拶

研修カリキュラム

時間	科目名	種別	講義名	内容	
150	1 強度行動障害がある者の基本的理解	講義	「プロローグ～強度行動障害のある人についての基本的な理解～」 強度行動障害とは（１）	強度行動障害とは	
				行動障害のある人への支援のこれまで	
				行動障害のある人が困っていること	
				行動障害への挑戦の意義と必要性	
				危機管理と緊急時の対応	
		講義	「私たちのことを知ってほしい～強度行動障害に関係する障害について～」 強度行動障害とは（２）	自閉症スペクトラム障害について	
				知的障害 / 精神障害について	
		講義	「医療と一緒に～福祉と医療の連携～」 強度行動障害と医療	行動障害と医学的な診断	
				行動障害と医療的アプローチ	
				福祉と医療の連携	
240	2 強度行動障害に関する制度及び支援技術の基礎的な知識	講義	「支える仕組み～制度理解のヒント～」 強度行動障害と制度	行動障害のある人を支える制度	
		講義	「ボクらの世界とのつながり方～環境を整えることの大切さ」構造化	支援に必要な環境整備	
				構造化の基本と手法	
		講義	「みんなでやろうよ～アイスブレイク～」	アイスブレイク	
		講義	「みんなでやろうよ～チームプレイの大切さ～」 支援の基本的な枠組みと記録	支援の基本的な枠組み	
				サービス等利用計画について～支援の基本的プロセス～	
				個別支援計画と手順書について	
				記録と情報共有	
		講義	「その時あなたは どうしますか～虐待・身体拘束・行動制限の予防は支援の質の向上から～」 虐待防止と身体拘束	障害者虐待防止法とは	
				行動障害と虐待	
				虐待をしない・させないために	
		講義	「支援の現場から～事例紹介～」 実践報告	児童期における支援の実践	
				成人期における支援の実践	
60	1 基本的な情報収集と記録等の共有	演習	「お互いに共有しよう～記録と情報共有～」 情報収集とチームプレイの基本（１）	記録とそのまとめ方と情報共有	
		演習	「知ることから始めよう～根拠をもって支援する～」 情報収集とチームプレイの基本（２）	アセスメントとは	
				情報の入手とその方法	
150	2 行動障害がある者の固有のコミュニケーションの理解	演習	「わかりにくいんです～伝わりにくさを体験しよう～」 固有のコミュニケーション（１）/ 「やりやすくする～整えられた環境での活動～」 固有のコミュニケーション（２）	コミュニケーションの理解と表出	意味の分からない言葉での指示
					視覚と聴覚で違う情報
					分かりにくい指示
				グループ討議 / まとめ	
				様々なコミュニケーション方法	本人に伝わりやすい環境と活動
150	3 行動障害の背景にある特性の理解	演習	「私たちが困っていること～感覚の違いを体験しよう～」 行動障害の背景にあるもの（１）	感覚・知覚の特異性と障害特性	作業（視覚的な手がかりのあり・なし）
					作業（軍手をはめて）
					騒がしい環境での聞き取り
					狭い視野での活動
		演習	「本当の理由を考えよう～氷山モデルで考える～」 行動障害の背景にあるもの（２）	行動障害を理解する氷山モデル	
				グループ討議 / まとめ	

川崎市強度行動障害支援力向上研修 (強度行動障害支援者養成研修【基礎研修】) 演習計画書

●演習について

- ・各演習におけるグループワークは1グループ最大8名とする。
- ・適切な進行や助言者として、各グループに補助者を1名配置し進行管理を行う。
- ・配置された補助者が講義などでグループを離れる際は、該当するグループの受講者に説明をしたうえで代理の補助者を配置し対応する。

●「基本的な情報収集と記録等の共有」(60分) 演習計画

【実施方法】

- ①「お互いに共有しよう～記録と情報共有～」情報収集とチームプレイの基本(1) [30分]
と②「知ることから始めよう～根拠をもって支援する～」情報収集とチームプレイの基本(2)
[30分] の2コマに分けて演習を実施。

①「お互いに共有しよう～記録と情報共有～」情報収集とチームプレイの基本(1) [30分]
協働作業を中心に取り組み、チームプレイにはどのような要素が必要なのか、チームで取り組むことでどのような効果が発揮されるのか、演習を通じて体験し今後の業務に活用する。

②「知ることから始めよう～根拠をもって支援する～」情報収集とチームプレイの基本(2)
[30分]

洗濯物を干すシーンでの指示や意味理解ができずに混乱している事例映像を参考に、支援者の指示と本人の理解のずれや動作などをアセスメントし支援のヒントにつなげる。

科目	分	内容	分担	使用ツール
「お互いに共有しよう ～記録と情報共有～」 情報収集とチームプレイの基 本(1)	5	演習解説	講師	・A4用紙2～30枚 ・セロハンテープ ・はさみ・ホチキス ・模造紙・マジック
	10	演習「タワー作り」	ファシリテーター	
	10	意見交換	ファシリテーター	
	5	まとめ	講師	
「知ることから始めよう ～根拠をもって支援する～」 情報収集とチームプレイの基 本(2)	5	講義	講師	・ワークシート ・個人用(A4)各1枚
	5	演習説明、支援動画閲覧	講師	
	5	演習 個人ワーク	ファシリテーター	
	10	演習 グループワーク	ファシリテーター	
	5	まとめ	講師	

●「行動障害がある者の固有のコミュニケーションの理解」（１５０分）演習計画

【実施方法】

①「わかりにくいんです～伝わりにくさを体験しよう～」固有のコミュニケーション（１）〔６０分〕と②「やりやすくする～整えられた環境での活動～」固有のコミュニケーション（２）〔９０分〕のコマにわけて実施。

①「わかりにくいんです～伝わりにくさを体験しよう～」固有のコミュニケーション（１）〔６０分〕

視覚・聴覚・わからない言語などの疑似体験を実施。わかりにくさや伝わりにくさを体験し行動障害の背景からの理解を深める。

②「やりやすくする～整えられた環境での活動～」固有のコミュニケーション（２）〔９０分〕

多動や衝動性の行動がある事例を参考に、日中活動場面での様々な行動を改善するために必要な「配置案」「必要な配慮」「自立課題」を考え、様々な支援方法の工夫があることを演習を通じて学び、特性に合わせた個々の設定の重要性を確認する。

科目	分	内容	分担	使用ツール
「わかりにくいんです～伝わりにくさを体験しよう～」固有のコミュニケーション（１）	10	演習説明	講師	<ul style="list-style-type: none"> ・スライド ・変な言葉カード ・読む文章 ・記録用紙
	10	疑似体験 意味不明な言語	講師・ファシリテータ	
	10	疑似体験 視覚と聴覚	講師・ファシリテータ	
	10	疑似体験 わかりにくい指示	講師・ファシリテータ	
	15	グループ討議	ファシリテーター	
	5	まとめ	講師	
	5			
「やりやすくする～整えられた環境での活動～」固有のコミュニケーション（２）	10	演習説明	講師	<ul style="list-style-type: none"> ・レジュメ ・個人ワークシート（A4） ・自立課題現物 10点 2組
	5	自立課題説明	講師	
	15	役割決め・個人ワーク	ファシリテーター	
	10	個人ワーク発表	ファシリテーター	
	30	グループワーク	ファシリテーター	
	10	発表	講師	
	10	まとめ	講師	

●「行動障害の背景にある特性の理解」（１５０分）演習計画

【実施方法】

①「私たちが困っていること～感覚の違いを体験しよう～」行動障害の背景にあるもの（１）〔６０分〕と②「本当の理由を考えよう～冰山モデルで考える～」行動障害の背景にあるもの（２）〔９０分〕の２コマに分けて実施。

①「私たちが困っていること～感覚の違いを体験しよう～」行動障害の背景にあるもの（１）〔６０分〕

当事者が感じている状況を、手がかりが不十分な状況や感覚の特異性を疑似体験し、支援者として当事者の理解の仕方や感じ方の困難さを理解する。

②「本当の理由を考えよう～冰山モデルで考える～」行動障害の背景にあるもの（２）〔９０分〕

行動の原因や背景をそれぞれ ABA（応用行動分析）と冰山モデルからとらえる視点を理解し、事例を用いたグループワークを通じてその実践を経験する。

科目	分	内容	分担	使用ツール
「私たちが困っていること～感覚の違いを体験しよう～」 行動障害の背景にあるもの (１)	10	演習説明	講師	<ul style="list-style-type: none"> ・スライド ・折り紙 ・折り紙の完成品 ・折り方の手順書 ・エンボス手袋(軍手も可) ・A4 コピー用紙(一人 2 枚) ・言葉の台本(コピー)
	15	疑似体験 手がかり不十分な活動	講師・ファシリテーター	
	10	疑似体験 手先の感覚	講師・ファシリテーター	
	10	疑似体験 音の洪水	講師・ファシリテーター	
	10	疑似体験 見え方の体験	講師・ファシリテーター	
	5	まとめ	講師	
「本当の理由を考えよう～冰山モデルで考える～」 行動障害の背景にあるもの (２)	20	演習解説	講師	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート個人用(A4) 各 1 枚 ・グループワーク用(A3) 1 枚
	10	演習説明・事例解説	講師	
	15	個人ワーク	ファシリテーター	
	30	グループワーク	ファシリテーター	
	10	発表	講師	
	5	まとめ	講師	